

第 8 回 中部 MIS_t 研究会ハンズオンセミナーに参加して

高岡市民病院 手術室看護師 中道 竜二

2017 年 9 月に福井ハピリンホールで開催されました第 8 回中部 MIS_t 研究会のハンズオンセミナーに、ファカルティとして参加させて頂きましたのでここに報告いたします。

まず、ファカルティでの参加をさせて頂くという話を聞き、手術室看護師として経験の浅い自分が受講者に何か教えられることがあるのだろうかと不安を抱きました。しかし実際にファカルティとして参加することで、自分自身さらに MIS_t に対して学習や興味を深めるきっかけになりました。限られた時間の中で上手く伝えられたかわかりませんが、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

今回のハンズオンセミナーでは 4 つのメーカーさんに器械を提供して頂き、受講者がグループごとに分かれ、各テーブルに配置された医師や看護師のファカルティと共に実際に器械に触れながら脊椎の模型を使って手術を体験しました。受講者は、まだ脊椎手術に入ったことがない方、入ったことがあるが経験が浅い方など様々でしたが、みなさん真剣にファカルティの話を聞き、学ぼうという意欲が強く感じられました。受講者からは「この時こんなことに気をつけているんですね」「この器械はこんなふうを使うんですね」といった声も聞こえ、手術の時に執刀医や器械出し看護師が何を意識しているのか理解していただけたように思いました。

MIS_t はその名の通り侵襲を最小限にした手術ですが、侵襲が小さいということは術野が視えにくいということになります。この時、看護師は次に何が行われるか理解し予測していないと手術が円滑に進むことはありません。看護師はただ指示された器械を出すという受け身の姿勢ではなく、自分も手術をしているという意識のもと器械出しを行う必要があります。

私も脊椎手術に入り始めた頃は見慣れない器械に戸惑い、術野で何が行われているか理解できないまま手術が流れていき苦手意識を持っていた記憶があります。しかし、以前私が受講者としてこのハンズオンセミナーに参加した時、それまで苦手意識の強かった脊椎手術のイメージが変わったことを覚えています。一見数が多くとっつきにくい印象のある器械も、このハンズオンセミナーで執刀医になって手術を経験することで、次に何の器械を使いたいのか、こんな時はこの器械が必要だということを少しずつわかるようになりました。この時の経験は今も器械出しをする時に役立っていますし、今回の受講者の方々もきっとこれからの手術にプラスなっていくと思います。

最後に、今回ファカルティとして参加させて頂き、私自身にも学ぶ機会を与えてくださった先生方、MIS_t 研究会の皆様、メーカーの方々、本当にありがとうございました。

また機会があれば MIS_t 研究会に参加し、1 人でも多くの方に MIS_t を身近に感じてもらいたいと思います。

